

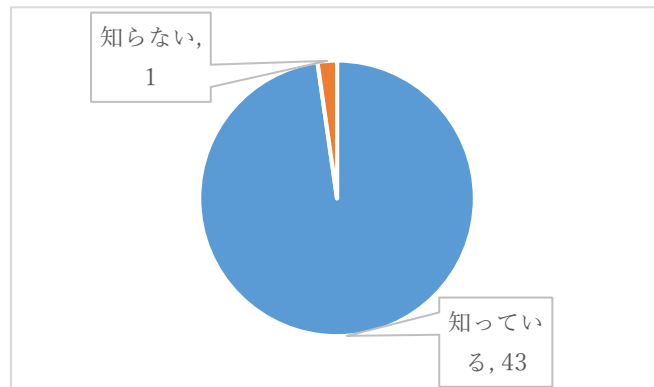
「共生社会」の実現に向けてのアンケート
実施結果について

実施日時	平成 30 年 9 月 2 日（日）10 時から 14 時まで
実施場所	鎌倉市福祉センター 第 3 会議室
対象者	鎌倉福祉まつり来場者
アンケート内容	別紙のとおり
実施総数	45 件

<集計結果>

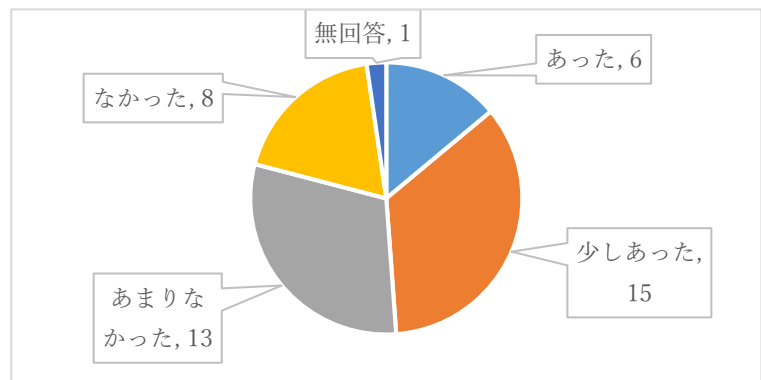
問 1 あなたは、平成 28 年 7 月に津久井やまゆり園で起きた事件を知っていますか。

有効回答数 44



問 2 事件を受けて、あなたやあなたの周りで何か変化はありましたか。

問 1 「知っている」(43)の内訳

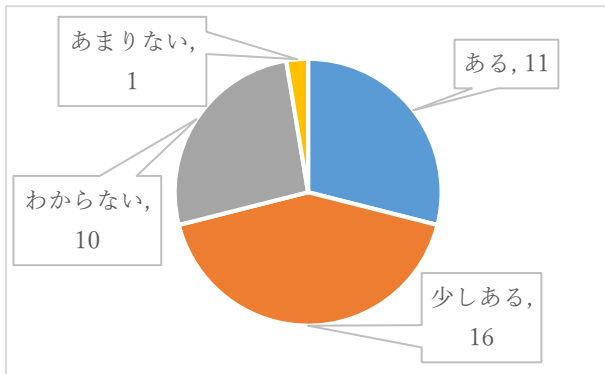


<結果>

「あった」「少しあった」と「あまりなかった」「なかった」の回答は、同数でした。聞き取りでは、「福祉に関わりがあるので、身近なものとして捉えている」という声もあり、周りで話題になることもあったようです。

問3 鎌倉市では、お互いの人格・個性・多様な生き方などを認める寛容な地域づくりを目指して、様々な取組をはじめています。「社会や人の多様性」について、何かイメージすることは、ありますか。

有効回答数 38



<結果>

7割程度の方が多様性についてのイメージを持っています。

具体的なイメージについて、「(仮称)かまくら共生条例」の制定や、他の「共生社会」実現に向けた取組みなどに反映させていきたいと思っています。

「社会や人の多様性」について具体的にイメージすることがあれば教えてください。

(記載にあたり、表現を変えている部分や、同様の意見をまとめているものがあります。)

・現状の認識

人種差別や障害者差別などの人権問題、LGBT、外国人排斥などがある。

夫婦別姓や性同一性障害など、障害者、福祉という点ではまだ一般の認知度が低い様に思う。

鎌倉(大船、関谷地区)は身体障害者の施設が多いので、理解もあるのかと思う。

NPO法人や様々な団体が「共生」に関する取組みをしている。

家から出られない友人がおり、たまに訪問して話をしている。

・社会のあり方について

「みんな違ってみんな良い」という言葉がもっと広く社会に浸透すれば、住みよい社会になると思う。

色々な人がいること。性別や障害、年代に関係なく、共に生活できる社会。誰もが自然に認めあう社会。

年齢、性別、障害、年収などにとらわれずに、誰もが住みやすい鎌倉になるといいと思う。

・必要なことについて

バリアフリー、多言語化。学校教育についての多様性。独居老人、認知症家族の支援。

世帯を一体的にサポートする仕組み。

地域の連帯感の重視。

先入観や偏見を持たないよう意識すること。互いに尊重しあい、違いを認めあうこと。

障害者や高齢者が病院や施設で隔離されないこと。

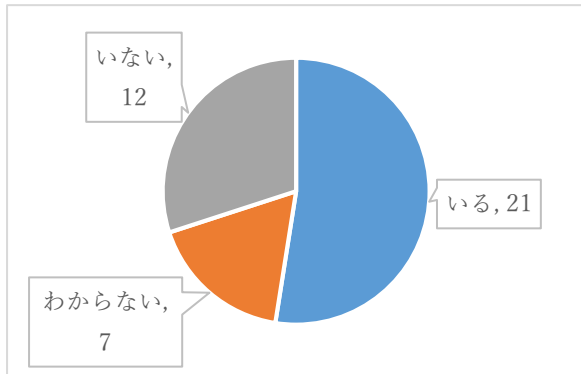
支援の対象となる可能性がある人はたくさんいるので、ひきこもりの人のボランティア活動参加等につながったグループ活動等、ピアサポーターへつなげたり、どう障害のある人と関わるかの啓発活動をしていく意義を感じている。

自己主張が多く協調性がないのはどうか。社会に協力することも必要だと思う。

心の中で何を思っても自由だが、表現(行動)の自由はある程度は制限されないといけない。

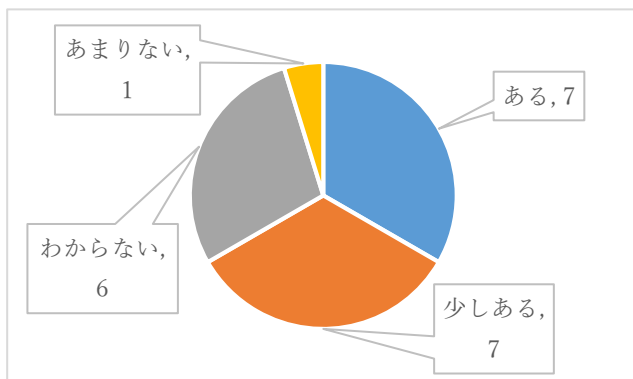
問4 あなた自身や、あなたの職場や近所や家庭などの身近なところに、社会的マイノリティだと思われる方はいますか。

有効回答数 40



問5 その方が社会的マイノリティであるがゆえに何か困っていることはありますか。

問4「いる」(21)の内訳

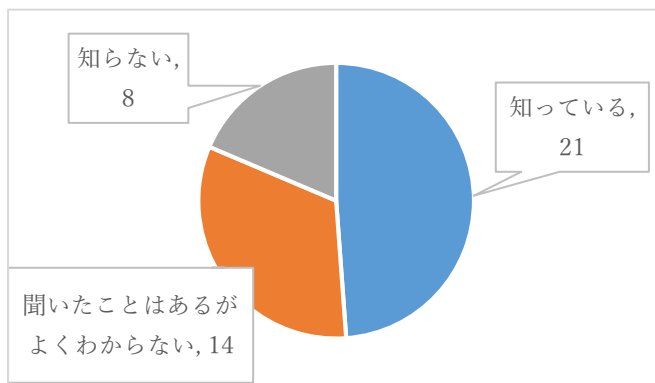


<結果>

7割程度の方が社会的マイノリティであるがゆえに困っていることがあるとの回答でした。それぞれの状況を理解できるような周知活動や、制度で支えきれないことからの整理などが必要だと考えます。

問6 社会的マイノリティかどうかに関わらず、わたしたちは、しばしば、生活する上で「困難」に直面することがあります。このようなときに、その背景に、「社会的な障壁」(社会生活を営む上で妨げとなる社会的な制度や慣行)が存在するという考え方を知っていますか。

有効回答数 43



<結果>

「知っている」と「聞いたことはあるがよくわからない」「知らない」の回答は、ほぼ同数でした。みなさんに知ってもらえるよう、「社会的な障壁」の考え方を広めていきたいと思えます。

問7 市が「共生社会」の実現を目指していることについて、ご自由にご意見等お聞かせください。(自由記述)

(記載にあたり、表現を変えている部分や、同様の意見をまとめているものがあります。)

・「共生社会」について

時代の方向性であると思う。

今までの考え方が間違っているということではなく、新しい価値観があるということか。ただし、法的な問題を含め、まだまだ整備が必要なことだと思う。

親切な心をみんなで持つことが必要。公的なものだけでなく一人ひとりが助け合える社会にしたい。

人権集団のようなややこしいものは、少し嫌かもしれない。

・市の施策について

現実的な議論、施策を期待したい。

課長のリーダーシップ次第だと思う。上を見ず、下を見る。短期で異動したりしないことが大切。

積極的にやってほしい。目的として大切なことなので、少しでも実現に向けて努力してほしい。

・具体的な取り組みについて

共生に関するイベント(LGBT、人権など)について、質の高いものを期待している。

マイノリティの存在の周知が必要。

横断歩道に視覚障害者が杖で渡れるような切込みをつけてほしい。道路に凹凸があると歩き辛い。

健康チェックが楽しかった。

支援の対象となる可能性がある人はたくさんいるので、ひきこもりの人のボランティア活動参加等につながったグループ活動等、ピアサポーターへつなげたり、どう障害のある人と関わるかの啓発活動をしていく意義を感じている。

世帯を一体的にサポートする仕組みが必要。

<まとめ>

多くの方々にアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

アンケート結果から、「社会や人の多様性」であったり、「社会的な障壁を解消していくこと」について、普段から関心がある方とそうでない方に二分されていることがうかがえました。

これを踏まえて、今まであまり「共生社会」について意識していない方に対しても関心をもってもらえるよう、周知・広報活動をするとともに、「共生社会」への関心もあり様々なご経験をお持ちの方々のご協力をいただきながら、両者をつなぐような形で、「共生社会」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。